

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	170101414		
法人名	有限会社 悠ライフ		
事業所名	グループホーム 悠ライフさくら山鼻		
所在地	札幌市中央区南16条西9丁目1-33 (電話) 011-513-3987		
評価機関名	北海道シルバーサービス振興会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目かでの2-7		
訪問調査日	平成20年4月18日	評価確定日	平成20年5月31日

【情報提供票より】 (20年3月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 28 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 15 人	

(2) 建物概要

建物構造	RC 造り		
	3階建ての 2~3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	有(225,000円) 暖房費11~3月10,000円		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (3月30日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	4	要介護2	4
要介護3	9	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 82.5 歳	最低 74 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ことに共生クリニック・馬場歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の中心部に位置し、近隣の建物と違和感がない造りで、1階はデイサービスセンターとなっている。利用者は日常的に、見学したり、ボランティアの演奏や演芸など共々に楽しみ交流をもっている。職員は開設時から多くの入れ替わりがあったが最近では落ち着き、信頼されるグループホームづくりを目指して前向きに取り組んでいる。介護度によって介助が必要な利用者には個別に丁寧に対応し、利用者は居心地良く過ごしている。食材の購入と献立作成は専門業者に委託し、安心した食事を提供している。更に職員は利用者寄り添う時間を多く作り個別支援に努力している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価項目中、5項目の改善課題については、職員の交替等で充分検討されていない点もあるが、改善に取り組んでいる意欲と努力は評価できる。利用者本位に検討し、安眠の支援など改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	現在の職員は今回の自己評価がはじめての体験で、真摯に受け止め検討を重ねた。充分時間をかけることが困難な中で職員間の一体化が強化された。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年12月から3回運営推進会議を開催したが、事業所の概要の理解にとどまり、意見を運営に反映させるまでには至っていない。今後の継続に期待をしたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族とは、介護計画の作成時に意見を求めたり、面会時に話し合いの時間を持ち、職員とは話し合える間柄になりつつある。過去に職員の交替が多く、話せる状況は不足がちであった。利用者個別に状況報告を毎月送り、返信を求めて家族の意見を聞く仕組みを作っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	市の中心部に位置し、近隣はマンションやオフィスが多く、日常的な交流は困難な点があるが、町内の盆踊りの行事には利用者が参加している。1階のデイサービスセンターとの交流は頻度が多く良好な関係造りがなされている。

2. 調査報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来「悠らいふの想い」と題して地域で愛される事業所を目指した理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎朝唱和し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の特性としてマンションやオフィスが多く、日常的な交流は困難な点もあるが、町内の盆踊りの行事には参加して楽しんでいる。また、1階のデイサービスセンターとは交流の頻度が多く、お互いに良い刺激となっている。また、事業所の行事に町内会からテントを借用し、助けられた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設後2年の経過の中で、職員の交替が多く落ち着いた評価の取り組みに至っていないが、今後のあり方に期待をしたい。なお、自己評価については、全職員と話し合いを重ね検討した。		

グループホーム悠ライフさくら山鼻

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	過去3回の開催で事業所の概要の理解を深めてきたが、意見を運営に反映させるまでには至っていない。	○	参加者の広がりや、内容の検討など今後の取り組みに期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的な報告の他に、行政と連携をとりサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりに個別のおたよりを作成し、毎月家族に送っている。また、ホーム便りは年4回発行する予定となっている。内容を吟味し暖かいつくりになっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時に話をしたり、介護計画の作成時に意見交換をし、返信の欄を設けて活かした取り組みをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員は複数の担当制にして異動や離職のリスクを最小限抑える配慮をしている。過去の経験を活かして前向きに取り組んでいる。		

グループホーム悠ライフさくら山鼻

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は管理者や職員の育成に配慮が不足している。外部研修の参加は見られるが、内部研修は全体会議の中に組み込まれ、時間的に不足みである。	○	研修の年間計画の作成とともに、連携のある事業所と合同の開催など取り組みを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員間では地域の事業者の管理者会議などで話し合いがなされている。また、「さくら祭り」では、他の事業所と合同で利用者の交流があり、楽しみな場所になっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所を希望した利用者のみならず、家族ともども、見学や体験を重ね、馴染みの間柄になるように支援している。既にいる利用者の協力もいただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はできる限り時間を共有し、利用者に寄り添い共に生活する仲間として支え合い、学びつつ過ごしている。		

グループホーム悠ライフさくら山鼻

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の個人記録の中に介護計画書を綴り込み、利用者のその人らしさの発見に努力し、本人の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当の職員がケアの対応など課題を見出し、毎月会議の中で検討している。全員の意見をもとに介護計画を作成している。また、家族や関係者の意見も考慮している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月個別に検討をし、一応6カ月を目安に見直しをしている。なお、現状と異なる場合はその都度見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別の外出支援や通院介助、また、美容室の利用など家族の対応が困難な場合は取り組んでいる。		

グループホーム 悠ライフ さくら山鼻

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は個々にかかりつけ医師と連携がある。事業所に往診する医師、また外来通院など適切な医療が受けられるように支援している。さらに医療連携も事業所として取り組んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として医療連携はあるが、重度化や終末期に向けた方針の設定はまだない。その都度医師や関係者と話し合うことになっている。	○	重度化や終末期の方針について、事業所としての早急な取り組みが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のみならず、職員のプライバシーに配慮があり、特に個人台帳などの扱いには、Pのラベルを添付して注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所では日々の暮らしは自由で、プログラムの設定はしていない。職員は利用者の希望や言葉にならない意向を把握して利用者本位に支援している。		

グループホーム悠ライフさくら山鼻

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所と食堂と居間に仕切りがなく見える体制で気軽に声かけや、準備の手伝いなど利用者もできる範囲でともに取り組み、職員と一緒に食事をしている。後片付けも自然体でスムーズに運んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆったりとし、安全面に配慮のある浴室で週2回を目途に入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自立歩行者、車椅子利用者、歩行器利用者など個別の対応をしながら、できることへの取り組みを模索し、強制ではなく自ら行動を起こすようにしむける支援をして、達成感を味わうように配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	中島公園や近隣の公園など外出の機会を設定し、全体で行動するのではなく、個別に臨機応変に対応している。近所の商店にも気軽に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の外玄関は日中は施錠していない。ユニットから玄関まで開閉の戸が多数あり、外出は職員が同行している。		

グループホーム悠ライフさくら山鼻

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定して避難訓練を実施したが、記録が見当たらない。記憶が曖昧で次回への取り組みの参考にならない。	○	非常に大切な避難訓練は計画に始まり、実施記録、さらに反省点など記録を保存することが求められる。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の作成と食材の購入は専門業者に依頼し、バランスの良い食事を提供している。個別に摂取量の把握や水分量の記録などわかりやすく記載している。		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって、ゆったりした椅子の配置や、所々の腰掛など生活の場所として居心地良く過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は各自必要な馴染みの調度品を持ち込み、その人らしく個性豊かに落ち着いた部屋になっている。		

※  は、重点項目。